

「NPOと神戸市の協働研究会」第1回公開ワークショップ議事録

日 時 2001年6月26日(火) 13時40分～15時40分
 場 所 コミスタこうべ 301 多目的室
 参加者 NPO関係者32名、行政関係者40名、一般・その他23名(合計95名)
 取材マスコミ関係(神戸新聞社、朝日新聞社、サンテレビジョン)

[開会挨拶] ... 平川(神戸市市民局)

平成10年にNPO法が施行され次々とNPO法人が設立され、ボランティア活動は活発になってきている。

NPOによるボランティア活動の4つの特徴的な現状

- ・ 行政サービスと住民ニーズの間に生じた隙間を埋める形で展開されている。
- ・ 市からの事業の一部を受託するという形で進められているケースがある。
- ・ 企業が進出を見合わせているような分野で積極的な活動が展開されている。
- ・ NPOを支援するようなNPOの活動も展開されている。

上記の活動の展開は、NPOが新たな公共公益サービスの担い手として不可欠な存在になってきていることを示しており、NPOと市の協働の必要性が強く指摘をされている。

それぞれ価値観・行動規範が違い、具体的な協働の原理・方法は手探りという現状。

協働の際の基本的な枠組みを作っていくため、具体的なケースを積み上げながら検証していく。方法は、お互いに勉強しあい学びあえることと、小さな声にも参加を保障するシステムであるということで、ワークショップ形式を採用する。

本日は、まずNPO関係者と市職員が顔見知りになる。その後は、NPOと市の共通の目標・役割分担・協働の方法について幅広く議論し、協働の枠組みを作っていく。

[ワークショップ] ... 立木(同志社大学)

ワークショップの練習ラウンドとしてアイスブレイク。お互いに知り合うために、用紙に名前と所属と自分はどんな人かを書いてまわして見せ合う。

ワークショップを次の3つのテーマで行った。1)協働という言葉聞いて何が思い浮かぶか 2)あなたが考えるNPOの強みって何ですか 3)NPOの弱みって何ですか / 詳細は表参照。

	1)協働という言葉より	2)NPOの強み	3)NPOの弱み
1班	行政主導 イコールパートナー 共に働く、楽しめる	『自由意志』(わがままに発言) 情熱というエネルギー源で動く	『組織マネジメント』: 使命、人材、資金、プログラムを含めて
2班	1+1=3(2より大きい)	『好きこそもの上手なれ』: 現段階で強みはなかなか無い	認知度が無い お金が集まりにくい 人が育たない 認知度へ戻る
3班	立場の違いを相互理解した自助努力の集まりがその能力を補完すること	『自由独立』: 枠にとらわれずに、強い意志でもって組織でやる	『無償感覚』: 仕事をやってもNPOは無償という理解が世間で多い
4班	『結』: あらゆる人が参加できる環境が整っている場所に自分がある	目的がはっきりしている	『継続性への危惧=もろさ』: ミッションがずれると別組織を作る等
5班	『夫婦』: 何が正解というのは無いが、一緒にやるのだったら仲良く	『公共性・弱いこと・自由さ』: 弱いからこそ弱い立場を理解できる	『流行歌(はやりうた)』: 今はやっているが、10年経てばどうか
6班	『大掃除』: 大抵そんなのは昔からある	『背水の陣』: 退路を絶たれた強み(熱い気持ちは当然必要)	『継続性』: 人材育成で後継者を育てるのが難しい
7班	『対等・自立・理解』: NPOは協働の条件、行政はどういう形	『近い』: 直接性や現場主義というよりこの言葉	『お金 人材 認知 お金』 NPOの強さと弱さは表裏一体
コメント	関係の透明性と相互批判力が不足 理念のNPO・実利の行政	社会のしくみをNPOが変えていくが抜けている	悪循環とかぬかみかみの世界がNPOだというのが2つぐらい出た

ワークショップの強みは、皆が意見を平等に対等に出し合い、グループで何か一つ結論を出していくこと。必ず結論を出さなければいけないということでもない。

今日の目的は、NPOも行政もいろいろ議論できることを肌で感じるということ。普通のワークショップは3時間が必要。今日はさわりだけを1時間で行った。

[今後の体制と予定] ... 森田(神戸市市民局)

この集まりは、市とNPOとの協働の基本フレームを探っていくため、市民局市民活動支援課で平成13年度事業としてやっている。

[目標]・短期的には、行政とNPO、ボランティア団体がお互いに顔見知りになる。・中期的には、震災10年目を一つのメドとして、どう動いていくのかというアクションプランを目指す。・長期的には、2010年を目標に現実的なプランニングをやっていく。

[方針]・トップダウンのやり方とボトムアップのやり方とを組み合わせ整理していく。・ワークショップを公開でやるとか、オブザーバーから意見を取り入れていく。

[課題]・NPO、行政全体、市民のコンセンサスをどう広げてどう取って行くのか。・市民全体であれば、地域の自治会・婦人会等の地縁団体、経済団体といった従来のコミュニティと、どういふふうに連携を取っていくのか。

[運営]

・公開ワークショップという形で年限を切らずに進めていき、本日の参加者が中心になり他にも呼びかけ、「NPOと神戸市の協働研究会」(協働研)を本日立ち上げることが提案された。

<多数の拍手で承認>

・概念整理&ワークショップのお世話などへ協力するNPO(協働研の世話人)を募集。準備段階の世話人を神戸まちづくり研究所の野崎氏から紹介。実吉氏(市民活動センター神戸)、中村氏(CS神戸)、今田氏(市民社会研究所)、星野氏(神戸大学)、森田氏(シティーコード研究所)、立木氏(同志社大学)、黒田氏(高齢者・障害者支援ネットワーク)、大賀氏(被災地・障害者センター)。世話人は、このメンバーに限らないが、まちづくり研究所、市民社会研究所、市民活動センター神戸、シティーコード、CS神戸の代表者の方ということで、異議無し。

[フレーム] 1)域社会全体の現状・課題についての共通認識 2)共通の目標の原理 3)役割分担 4)協働の原則 5)協働の方法 この項目も、これから動いていく。

・意見交換時のルールは、ロバートルール(大勢で議事をやっていく時に団体としての意思決定をスムーズにするきちんとしたやり方)を導入してやる。

・ホームページで掲示板に意見を書き込めるものを作る。

次回は、8月7日火曜日18時。ワークショップの第2部。

[市民サミットへの協力依頼と参加呼びかけ] 市民活動支援課で、9月29日に市民サミットを企画。コミスタを使ってワークショップなどを取り入れた行事にする。商売人・サラリーマン・婦人会・自治会といったいろんな方々、市民全体の協働をどうしていくのかという話がベースになる。市民全体のいろんなセクターの協働を全部やりたい。協力と参加をおねがいしたい。

[閉会挨拶] ... 今田(市民社会研究所)

市役所からこれが出てきたのが、ある意味では残念だが、非常に喜ばしいことでもある。

森田氏は省略したが、英国にコンパクトというのがある。イギリスのブレア政権になってからの、政府とボランティア・コミュニティーセクターがどんな協働作業をするかという一つの宣言。サッチャー政権時はコントラクトカルチャーということで、行政からのNPOに対する委託が非常に進んだが、委託を受けることでNPOの独立性が損なわれる、委託を受けられるNPOというのは大規模で組織がしっかりしたところに限られ、草の根のNPOが切り捨てられる等の問題が出てきたので、コントラクトからコンパクトへとなっている。昨今の日本では、委託ということが言われるようになってきた状況の中でイギリスの経験も踏まえて、どういった形でNPOと行政が一緒に仕事をしていったらいいかということを考えていきたいということで呼び掛けた。

立木茂雄という名司会者の功績で、非常におもしろい生き生きとしたワークショップをすることが出来た。

次回は8月で夜。参加者がもっと増えるかもしれない。楽しみにしている。

以上をもって15時40分、本日の全プログラムを終了した。